とやまの薬が生んだ
信頼の絆
～とやま売薬物語～

監　　修　米原　寛（越中史壇会会長）
　　駒見　典子（こま工房）
挿入音楽　車　吉章（ま～る）
ナレーション　能登　大河

制作：富山県教育委員会
富山県映像センター
（富山県民生涯学習カレッジ　映像センター課）
TEL 076-441-8455／FAX 076-441-5334

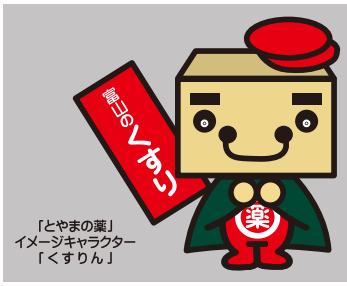
創造のよろこび

とやまの薬が生んだ信頼の絆
～とやま売薬物語～

◆学習のねらい◆

・「とやま売薬」の歴史、富山県の近代産業を発展させた背景、現状や今後の発展等について学び、ふるさとの産業や先人の努力に対する理解を深める。

・「とやま売薬」の魅力に触れ、ふるさとに愛着をもつ契機とする。



「とやまの薬」
イメージキャラクター
「くすりん」

みんな、「とやま売薬」が **有名な理由** を知っている？
ぼくといっしょに「とやま売薬」の **ひみつをさぐる**
旅に出かけよう！

◆ 内　　容 ◆

ひみつ①　とやま売薬の特徴

今は薬局やドラッグストアなどで手軽に薬を買うことができるが、数十年前までは、そのような店は少なく、家庭では必要な薬をすぐに買うことはできなかった。

そんな中、「とやま売薬」はいろいろな薬が入った薬箱を各家庭に置き、人々の要望に応えようとした・・・。

ひみつ②　とやま売薬の歴史

今から３００年以上前の江戸時代。その頃、富山県は富山藩と呼ばれていた。

当時の藩主前田正甫公は、早くから医術に興味をもち、病気やけがに効く薬を自分でも作っていた。そして、腹痛によく効く「反魂丹」をいつも携帯していたと言われている・・・。

ひみつ③　とやま売薬の最大の危機

明治時代になり、薬や病気の治療に関する多くのものが「西洋のものがよい」とされると、とやま売薬の薬は「にせものの薬」「害はないが、なくても一向に構わない」と言われるようになった。また、薬を販売するには、政府の許可が必要になり、政府が厳しく取り締まった・・・。

「とやま売薬」にはまだまだひみつがあるんだ！

上映時間：24 分

対象学年：小学校 中学年以上

【問い合わせ】
富山県映像センター（富山県民生涯学習カレッジ 映像センター課）
〒930-0096 富山県富山市舟橋北町 7-1 富山県教育文化会館3階
TEL:076-441-8455/FAX:076-441-5334